

沼津工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	社会と技術
科目基礎情報					
科目番号	2020-590		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	物質工学科		対象学年	3	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	(参考図書) 改訂版 演習で学ぶLCA 稲葉敦 株式会社シーエーティ				
担当教員	伊藤 拓哉, 竹口 昌之				
到達目標					
(1) LCAについて説明できる。 (2) 製品の地球温暖化影響を定量的に評価、分析できる。 (3) 製品の地球温暖化影響評価結果を基に、グループで議論し、改善策を提案できる。 (4) グループで提案した改善策についてPowerPointを用いて説明することができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
(1) LCAについて説明できる。	地球温暖化問題についてLCAの考え方をを用いて説明できる。	LCAについて説明できる。	LCAについて説明できない。		
(2) 製品の地球温暖化影響を定量的に評価、分析できる。	製品の地球温暖化影響を定量的に評価分析し、改善に向けた文献調査ができる。	製品の地球温暖化影響を定量的に評価し、分析することができる。	製品の地球温暖化影響を定量的に評価分析できない。		
(3) 製品の地球温暖化影響評価結果を基に、グループで議論し、改善策を提案できる。	製品の地球温暖化影響評価結果を基に、グループで議論し、現実的な改善策を提案できる。	製品の地球温暖化影響評価結果を基に、グループで議論し、改善策を提案できる。	製品の地球温暖化影響評価結果を基に、グループで議論し、改善策を提案できない。		
(4) グループで提案した改善策についてPowerPointを用いて説明することができる。	グループで提案した改善策についてPowerPointを用いてわかりやすく説明することができる。	グループで提案した改善策についてPowerPointを用いて説明することができる。	グループで提案した改善策についてPowerPointを用いて説明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
【本校学習・教育目標 (本科のみ) 】 2 【本校学習・教育目標 (本科のみ) 】 5					
教育方法等					
概要	製品の資源採掘から、製造、使用、廃棄までその一生 (ライフサイクル) の環境負荷を評価するライフサイクルアセスメント (LCA) について学び、グループで任意の実際の製品に対してLACを用いて地球温暖化影響評価を行う。その結果を元に、グループ内でのディスカッションを通じてその製品のライフサイクルにおける地球温暖化影響という視点での問題点を発見し、改善策の提案を行うプロジェクト体験型学習 (PBL) を実施する。また、これらの評価結果や提案した改善策について、プレゼンテーションを実施する。				
授業の進め方・方法	LCAの原理と手法を学び、その後実際の製品についてのLCAを実施し、その結果から地球温暖化影響を低減する改善策の提案を行う。LCAについては講義形式、LCAの実践と改善策の提案はPBL形式のグループワークで行う。グループワークの途中と最後にLCA結果と改善策についてのプレゼンテーションを行う。				
注意点	1. 評価については、評価割合に従って行います。ただし、適宜再試や追加課題を課し、加点することがあります。 2. 中間試験を授業時間内に実施することがあります。				
授業計画					
後期	3rdQ	週	授業内容	週ごとの到達目標	
		1週	ガイダンス・LCAとは何か	・本講義の位置づけと意義を理解する。 ・LCAの考え方と概要について説明できる。	
		2週	LCAの方法① 目的及び調査範囲の設定	・LCAを実施する際の目的及び調査範囲の設定について説明できる。	
		3週	LCAの方法② インベントリ分析	・インベントリ分析について説明できる。	
		4週	インベントリ分析の演習	・与えられたデータからインベントリ分析を実施できる。	
		5週	LCA研究事例の紹介	・実際のLCAの研究事例を聴いて内容を理解できる。	
		6週	ライフサイクル影響評価①一般の手順と特性化	ライフサイクル影響評価の一般の手順と特性化について説明できる。	
		7週	ライフサイクル影響評価②被害評価と重み付け	ライフサイクル影響評価における被害評価と重み付けについて説明できる。	
	4thQ	8週	リサイクルのLCA	リサイクルのLCAについて説明できる。	
		9週	解釈、LCAの国際基準	LCA結果の解釈とLCAの国際基準について説明できる。	
		10週	報告会	・PowerPointを用いてこれまでの調査結果を発表できる。	
		11週	調査対象の選定	・グループで任意の製品を選定できる。	
		12週	調査対象のインベントリ分析および改善シナリオの検討	・選定した製品に対してインベントリ分析を実施できる。	
		13週	改善シナリオの検討およびそれに基づくデータ収集	・改善シナリオを検討し、そのシナリオに基づくインベントリ分析を行う為のデータ収集が出来る。	
		14週	改善シナリオに基づくインベントリ分析および発表準備	・改善シナリオに基づくインベントリ分析が出来る。 ・PowerPointを用いて発表資料が作成できる。	
		15週	報告会	・PowerPointを用いてこれまでの調査結果を発表できる。	
16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	2	

				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	2	
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	2	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	2	
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	2	
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	2	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	2	
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	2	
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	2	
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	2	
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる。	2	
				複数の情報を整理・構造化できる。	2	
				特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	2	
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	2	
				グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	2	
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	2	
				適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	2	
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	2	
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	2	
				周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	2	
				自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	2	
				目標の実現に向けて計画ができる。	2	
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	2	
				日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	1	
				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	2	
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	2	
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	2	
				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	2	
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	2	
				リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	2	
				適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	2	
				リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている。	2	
				法令やルールを遵守した行動をとれる。	1	
				他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	1	
				技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	1	
				コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	1	
				工学的な課題を論理的・合理的な方法で明確化できる。	1	
				公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	1	
				要求に適合したシステム、構成要素、工程等の設計に取り組むことができる。	1	
				課題や要求に対する設計解を提示するための一連のプロセス(課題認識・構想・設計・製作・評価など)を実践できる。	1	
				提案する設計解が要求を満たすものであるか評価しなければならないことを把握している。	1	
				経済的、環境的、社会的、倫理的、健康と安全、製造可能性、持続可能性等に配慮して解決策を提案できる。	1	

評価割合			
	報告会	相互評価	合計
総合評価割合	90	10	100
専門的能力	90	10	100